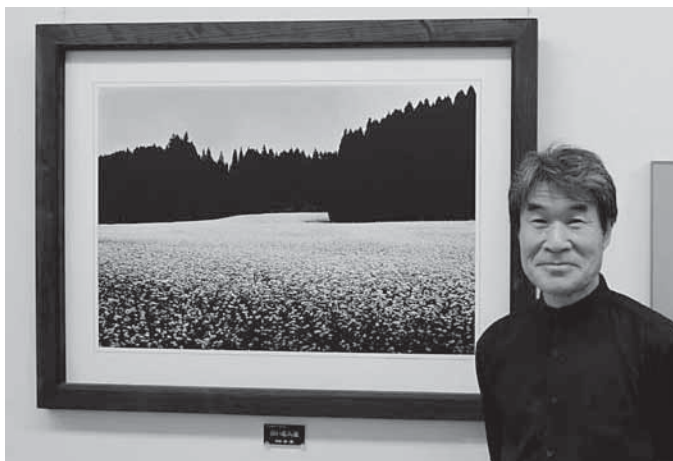


第10回写真研究会無名塾「二人一人の作品展」

内田建二郎さん（高森・横町）が出品



▲阿蘇の風景を撮り続けている内田さん

多数の人がそれぞれの感性から
写し出された写真を一目見よう
と訪れていました。

塾生でもある当町の内田建二郎さん（高森・横町）が出品されました。高森の風景を中心に6点の写真を出品。内田さんは、「知人や友人からは高森に住んでいることをうらやましがられることがよくあります。何より高森には素敵な風景がたくさんあり、雄大な根子岳や、清栄山から見る美しい朝やけ、俵山に沈む夕焼け、高森殿杉など高森に住んでいることに感謝するとともに幸せに思います。これから高森の素晴らしい自然を知ってもらえる写真を撮りたい。」と話していました。

10月4日から10月10日の間、熊本県立美術館分館展示室Ⅰで、「二人一人の作品展」が開催されました。この作品展は、写真研究会無名塾（小林雄治郎塾長）が主催しており、今年で10回目を迎えます。県内外から

青年海外協力隊々員として活躍

岩下昭一郎さん（高森・森）が

帰朝報告

平成21年9月から2年間、青年海外協力隊々員としてバングラデシュに派遣されていた岩下昭一郎さん（高森・森）が、10月13日帰朝報告のため町長室を訪問されました。派遣先では、首都ダッカにある職業訓練校のコンピュータ科に配属され、グラフィックコースの質の向上のため、同科の先生や生徒の指導にあたりました。バングラデシュは繊維業が盛んな国であり、岩下さんの指導が活かされていくことが期待されます。



▶バングラデシュの正装「パンジャビ」を身にまとった岩下昭一郎さんが帰朝報告をする様子